

住民ニーズに幅広く応える 公立図書館のいま



さとう きいちろう
佐藤 樹一郎
おおいた
大分市長(大分県)



はまなか けいいち
浜中 啓一
おうめ
青梅市長(東京都)



おぐち としゆき
小口 利幸
しおじり
塩尻市長(長野県)



なかがわ まさる
中川 勝
よねざわ
米沢市長(山形県)

司会・コーディネーター

ほその すけひろ
細野 助博

中央大学総合政策学部教授

地域の「知」の拠点である公立図書館。活字離れが進む中、単に図書資料を貸し出すだけでなく、子どもへの読み聞かせを行ったり、講座やセミナーを開催したり、さらには利用者の課題解決に役立つレファレンスサービスを充実させるなど、住民ニーズに幅広く応える図書館が増えています。また、子育て施設など、ほかの公共施設も備えた複合施設として開設し、来館者の増加や中心市街地の活性化につながる事例も出てきました。

座談会では効果的な図書館行政に取り組む中川・米沢市長、小口・塩尻市長、浜中・青梅市長、佐藤・大分市長にお集まりいただき、それぞれの市立図書館の特徴、市立図書館がもたらす集客効果、適切な運営を行う上での工夫した点などについて、幅広くお話しいただきました。
(本文中の役職名・敬称は一部省略しています)

空き店舗が増える 中心市街地のシンボル施設 として、市民ギャラリーを 併設した市立図書館を 整備しました。



中川 勝
米沢市長(山形県)

さまざまな機能を併せ持つ公立図書館

細野 地域の情報のハブであり、知の拠点としても位置付けられる公立図書館。近年は、ビジネスや子育てなどへの支援をはじめ、地域や利用者への課題解決の役割も担うようになりました。それでは、各都市の市立図書館の特徴や取り組みについてお聞かせいただきたいと思えます。

中川 平成28年7月、市民ギャラリーと市立図

書館を備えた複合施設「ナセBA」を開設しました。一般公募を基に決められたこの愛称は米沢藩9代藩主・上杉鷹山公の「なせばなる」に由来しています。

建設した場所はかつてまち一番の繁華街としてにぎわった中心市街地です。ただし、現在は、郊外型の商業施設に押され、空き店舗が増えているエリアでもあります。ナセBAはこの地域のにぎわいの再生を目指し、中心市街地のシンボル施設として整備しました。

建物は5階建てで、1階が可動間仕切りによって9つの展示室に分けられる「よねざわ市民ギャラリー」。そして2階の市立図書館に上がると、高さ13mの吹き抜けを囲むように設けられた壁面書庫が目に見えび込んできます。蔵書冊数は約30万冊。レファレンス(調査相談)カウンター、郷土資料閲覧室、こどもコーナー、お



はなしのへや、情報検索・視聴コーナーなどが設けられています。外壁には市有林の杉材が使われているほか、山形大学工学部で開発された有機EL照明を採用した木製フレームの読書灯を、図書館の閲覧席や学習室などに設置しています。

ほかにも、ICTタグシステムはもとより、最新のクラウド型システムを採用することで、ランニングコスト

を抑えているほか、借りた本を投函すれば自動的に返却処理できるブックポストの設置なども行い、サービスの充実を努めています。

小口 塩尻

市では平成22年、さまざまな公共施設や民間施設が入居する「市民交流センター・えんぱーく」を中心市街地に開設しました。その主要施設として整備したのが塩尻市立図書館です。商業施設が閉鎖され、空き地になっていた土地に、市街地再開発事業により建設しました。

市民交流センター全体の延べ床面積は約1万2000㎡、うち1・2階を占める図書館の面積は3300㎡です。開架冊数は21万冊に及びます。さらに、分館を含めた蔵書数は約45万冊、年間貸出数は約67万5000冊。これは、市民1人当たり年間10冊を借りている計算になります。

市民交流センターにはそのほかに、子育て支援センター、交流エリア、商工会議所、民間オフィスなどが入っています。

建物の特徴として、鉄筋コンクリートに鋼板を張った「壁柱」の存在が、内外から注目を集めています。1階床から3階天井までの約11mの高さを誇る壁柱が館内に100本近く不規則に



高さ13mの吹き抜けを囲むように設けられた壁面書庫が印象的な市立米沢図書館(米沢市)



館内に100本近く不規則に配置される壁柱が独特な存在感を放つ塩尻市立図書館(塩尻市)

配置されているさまは圧巻で、各種の建築コンテストでも高い評価を受けました。

市民交流センターの基本コンセプトは「知恵の交流を通じた人づくりの場」。これに基づき、図書館の目指すべき方向として、「役立つ情報を提供する図書館」「意欲と活動を応援する図書館」「進化する図書館」を掲げ、図書館運営を行っています。

浜中 青梅市中央図書館は平成20年、通勤・通学帰りや買い物の際にも利用できる都市型の図書館として、JR青梅線河辺駅前の複合商業ビルにオープンしました。駅前立地という利便性の高さから、来館者は1日平均2000人。この8年間で500万人に至り、今年(平成28年)の9月に来館者500万人達成記念セレモニーを開きました。

蔵書は約29万冊、うち児童書は5万冊です。また、一般図書にとどまらず、視聴覚資料、視聴覚障害者用資料なども取り揃えているほか、インターネット閲覧端末、DVD視聴ブース、対面朗読室、子ども用のお話し部屋、ボランティア室などのハード面も充実しています。また、ICタグによる図書資料の管理を行い、盗難防止や自動貸出に対応しているほか、図書を清潔に利用した



小口 利幸
塩尻市長(長野県)

子どもたちが
利用しやすい、通いやすい
図書館にしようと、
駅の近くでの開設を
基本コンセプトに据えました。

だくための除菌ボックスも用意しています。さらに青梅市ではこの中央図書館のほかに、各市民センターに併設された分館を9館設けており、全体の蔵書数は60万冊を超えます。

また、平成28年4月から経費の増加を抑えつつ、サービスの向上を図ろうと、指定管理者制度を導入しました。市内すべての図書館に同制度を導入したのは、東京都内の市町村では青梅市だけです。開館時間の拡大はもちろんのこ

と、以前は手が回りにくかった学校図書館への支援も進むなど、早速、民間委託の効果が表れています。

佐藤 大分市には大分市民図書館本館、分館のほか、市内の11地区公民館・2市民行政センターにも図書室を備えています。特に本館は、大分市誕生100周年の節目である平成25年に開館した複合文化交流施設「ホルトホール大分」の中心施設として、ほかの公共施設と同様、新たに整備しました。蔵書数は約40万冊で、年間の来館者数は約53万8000人、貸出冊数は77万2000冊に及びます。ホルトホール大分にはそのほかに、市民ホール、スタジオ、県内大学のサテライトキャンパス、大分市産業活性化プラザ、子育て交流センター、トレーニングルーム等が設けられるなど、さまざまな機能を備え、多様な市民ニーズに応えています。

大分市民図書館の特徴は、本館・分館だけでなく、地区公民館や市民行政センターの図書室を含め、一体的にネットワークを形成している点にあります。貸出や返却はどの図書室からでも可能です。さらに、地区公民館よりも住民に身近な施設として、「校区公民館」も備えています。ここでも予約図書の受け取りや返却が行えます。また、雑誌の代金をお支払いいただくかわりに、雑誌カバーの表面にスポンサー名を、裏面に広告チラシを掲示する「雑誌スポンサー制度」も導入しています。

市民からは、より手に取りやすい新刊図書をさらに充実してほしいとの要望を受けています。今後はそうした声にもしっかりと応え、併せて、電子図書館の推進や電子媒体を使った情報提供なども積極的に推進していきたいと考えています。



JR青梅線河辺駅前の複合商業ビルにオープンした青梅市中央図書館(青梅市)

立地の利便性が 集客を増やす

細野 それぞれの図書館は、いずれも中心市街地に設置されていますね。国内の大半の市で中心市街地の活性化にとっても苦慮しています。そのあたりも含めて、狙いや効果を改めてお話しください。

小口 私はもともと子どもが大好きで、子どもたちのためになる政策を実現しようと思って市長に就任した人間です。子どもたちが利用しづらい図書館だったら、設置する意味がないと考えてきました。従って、まずは駅の近くであること、少なくとも自転車を通えるまちなかに開設することを基本コンセプトに据えました。その狙いは正しかったことが今証明されています。設置前は40万人を想定していた年間利用者数は、現在60万人を超えています。特に、土日ともなれば、館内は市外からも含め、多くの子どもたちであふれかえっています。ただ、日本人は飽きやすい一面がありますから、飽きられないような新たな仕掛けも必要だと感じています。

中川 ナセBAは米沢駅からは10分ほどの、利便性が高い場所に立地しています。7月にオープンしたばかりですが、勉強に励む中高生の姿が多く見られますね。今、米沢市では子どもの学力向上に力を入れている最中です。新図書館の設置を契機に、学習習慣の定着、学力の向上

中央図書館はJR河辺駅直結の好立地。立地さえよければ、図書館の集客効果は相当大きなものがあると実感しています。



浜中 啓一
青梅市長(東京都)

つながればと期待しています。

浜中 青梅市中央図書館もJR河辺駅直結の好立地です。駅から歩行者デッキで直接館内に入ることが出来ます。活字離れ、読書離れが心配される中でも、立地さえよければ、図書館の集客効果は相当大きなものがあると実感しているところなんです。現在、青梅市では空き店舗なども増えているJR青梅駅周辺の活性化に向けて取り組んでいるところですが、にぎわい再生に向

けて、公共施設の効果的な設置も、視野に入れていきたいと考えています。

佐藤 ホルトホール大分も駅からほど近い場所に立地していますから、とても利便性が高いと市民からも好評です。大分市民図書館本館にも、参考書や教科書などを持参して、勉強する中高生の姿をよく見かけます。子どもたちが学習する施設としても機能しています。

複合施設がもたらす相乗効果

細野 昔は図書館と言えば単独に設置されることが多かったと思います。しかし、近年は同じ建物内にほかの施設と同居する、いわゆる複合施設として開設される例が増えていますね。

中川 ナセBAの「BA」は「BOOK」と「ART」の意味。もともとこの図書館は、芸術作品の発表・展示、芸術・文化情報の収集などを行う市民ギャラリーとの連携を図ることが目指されていました。また、ナセBAの隣には1000席のホールを持つ市民文化会館も立地しています。集客はもちろんですが、周辺にある商業施設との相乗効果を期待しています。

浜中 図書館が入る複合ビルの隣には大規模なスーパーマーケットも入っています。買い物物のついでに、図書館を利用するお母さん方も多くいらつしゃいます。また、今年度から小さいお子さんをお連れのご家族を対象に、「一時保育サービス」も始めました。

佐藤 ご紹介したようにホルトホール大分は、さまざまな機能を備えた複合文化交流施設です。特に、ビジネス関係では、インキュベーション機能を備え、起業家支援を担う「大分市産業活性化プラザ」を設置しています。大分市



佐藤 樹一郎
大分市長(大分県)

大分市民図書館本館・分館、
そして11地区公民館・2市民行政
センターなどとも図書館ネットワーク
を形成。貸出や返却は
どこからでも可能です。

小口 塩尻市立図書館でもビジネスに役立つ情報提供には非常に力を入れています。具体的にはビジネス相談会を開催したり、起業家支援として、3Dプリンターの利用サービスを実施するなど、ものづくり体験の機会も用意しています。



細野 活字離れが指摘される中で、読書普及も図書館の役割の一つです。この点で何か工夫されていることはありますか。

米沢市子ども読書活動推進計画を策定しました。現在、読書活動推進のきっかけづくりとして、図書館の機能も活用しながら、小学生を対象に地元の歴史について学習する「こどもふるさと歴史講座」や「おはなしかい(読み聞かせ)」などのイベントも開催しています。

浜中 子どもの読書の定着を図るためには親子で本を読む習慣をつけることも大切です。それが結果として、お子さんが本に興味を持ち、継続した読書習慣を養うことにもつながると思います。青梅市中央図書館でも、読み聞かせなどを通じて、そうした機会を積極的につくってきたいですね。

小口 塩尻市でもそうした読書推進の一環として、著者、出版者、書店と連携し、本の魅力を発信する「信州しおじり本の寺子屋」事業を展開しています。これまで多数の講演会やワーク

シヨップ、企画展などを開催してきました。

佐藤 大分市民図書館でも、読み聞かせボランティアによる絵本や紙芝居のおはなし会や読みの普及に向けて、読んだ本の感想などを100冊まで記録できる「家読(うちどく)ノート」を、「小学校低学年向け」「小学校高学年～中高生向け」「大人向け」の3種類作成しました。

中川 市立米沢図書館でも、自分が借りた本の名前を、銀行の通帳のように機械で記録する「読書通帳」サービスを始めました。子どもたちの読書のモチベーションアップにつながっているようです。

**歴史資料も生かし、
地域に立脚した図書館へ**

細野 今の時代は、その図書館ならではの個性や地域性を出していくことも重要だと思いますが、この点についてはいかがでしょうか。

中川 図書館には、旧藩主上杉家から寄贈を受けた古文書や絵図をはじめとした郷土資料を多数保有しています。それらの中から学術的に貴重な古典籍や米沢典籍や米沢に伝わる古典籍・古文書をデジタ



「ホルトホール大分」の中心施設として設置された大分市民図書館本館(大分市)



細野 助博
中央大学総合政策学部教授

ル画像にて提供するデジタルライブラリーを構築し、インターネット上でも広く公開しています。

佐藤 大分市にはクリシタン大名の高山右近の子孫の方がいらっしやって、蔵書を多数図書館に寄付されました。また、大分市出身で、世界的な建築家の磯崎新さんも、世界中から集めた建築関係の蔵書を寄贈したいとの意向を示されました。大分市には磯崎建築も多く、熱心に見学される学生さんも少なくありません。将来的にはそうした方々の研究拠点としても機能できるように整備していければと考えています。

小口 やはり、図書館は地域の特色も出していくべきですね。塩尻市は筑摩書房を設立した古田晁氏の出身地でもあり、筑摩書房から多数の蔵書を寄贈いただいています。そこで、市立図書館では古田晁文庫や古田晁記念館を設けています。また、市の特産であるワインなど、塩尻市との関係の深いものについては、テーマ性を持たせて資料を所蔵公開しています。

浜中 青梅市の図書館行政の特徴としては、ほかの自治体との連携事業が挙げられます。青梅市を中心とする西多摩地域の8自治体はもとより、隣接する入間市、飯能市とも、図書

利用を行うなど、広域自治体による市民の図書環境の充実を進めているところです。

細野 青梅市では今年度から指定管理者制度を導入しているとのことですが、同制度を含め、各都市において運営面で工夫されていることがございましたら、お聞かせください。

浜中 指定管理者制度の導入で館内にカフェエリアが設けられたり、お子さんの「一時保育サービス」が始まるなど、市民サービスにおいてプラスの面がはつきり出ています。今後市民間ならではの新しいアイデアをサービスに生かしていきたいと考えています。

中川 米沢市でも多様化する市民ニーズに、より効果的・効率的に対応し、市民サービスの向上を図るために指定管理者制度を導入しています。図書館には、米沢藩の古典籍や古文書が多数所蔵されていますので、その管理や国宝をはじめ貴重な歴史資料を保存・展示する米沢市上杉博物館との連携を図るために、同法人を指定管理者に指定し、司書や学芸員の有資格者を配置し運営しています。

佐藤 ホルトホール大分自体は指定管理者制度を導入していますが、大分市民図書館本館は、窓口業務は委託、管理業務は直営で運営しています。24時間365日利用できる返却ボックスを設置したり、委託スタッフがローテーションを組んで、開館時間を9時から21時までとするなど、市民サービスが低下しないように工夫しているところです。

小口 塩尻市ではもともと「公設市民営」を目指してきました。実際、ボランティアグループとして「えんぱーくらぶ」が組織され、熱心に企画などを立てていただいています。組織体とし

ては脆弱なところがあるのも否めません。そのため、現在は直営の体制をとっているものの、市民の中には図書館は365日開館すべきとの声もあります。市民ニーズに応えるための運営形態について多方面から検討する時期に入っていると考えています。

細野 中心市街地活性化や地域文化への貢献なども含め、読書の普及に果たす公立図書館の役割の大きさを改めて実感させられた座談会となりました。また、複合施設として開設することで、さまざまな相乗効果が期待できることも分かりました。今後も効果的な図書館行政を進め、まちの課題解決、子どもたちの学力向上などに寄与されることを願っています。本日はどうもありがとうございました。

(平成28年11月17日、全国都市会館にて開催)

本コーナーは隔月掲載となります。次回は3月号に掲載予定です。



